

地域おこし協力隊の活動紹介

☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)



地域おこし協力隊とは三大都市圏などに住む人材を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、将来的には石巻への定住・定着を図る国の事業です。市では既に29人を委嘱し、退任した16人のうち、13人が市内での就労または定住に繋がっています。各隊員の活動内容などを紹介します。

仙台でのワーキングホリデーをきっかけに東北が大好きになり、石巻で出会ったたくさんの温かい人たちのおかげで、この地に来ることを決めました。

令和7年11月より「一般社団法人Reborn-Art Festival(以下RAF)」で活動しています。RAFはアート・音楽・食を中心に地域の魅力を発信する団体です。

現在は牡鹿半島のもものうらビレッジの運営やツアー企画、石巻とRAFの魅力発信を担当しています。また石巻駅構内のReborn-Art Standでは、台湾料理をテーマにしたイベントも不定期で開催しています。これからも石巻に台湾のエッセンスを加えながら、楽しいツアーや企画を届けていきたいです。



- 隊員プロフィール 氏名 陳尔帆(チン・ショウハン) 任期 令和7年11月1日~(最大3年間) 出身 台湾(転出元 仙台市)
- 前職 ・会社員(海外建材代理販売、免震装置関係のプロジェクト実施)・仙台市のゲストハウスでワーキングホリデー
- 主な活動内容 もものうらビレッジを拠点としたディープな観光ツアーの企画を行うほか、台湾の食文化や言語などの交流促進を行っています。
- 隊員になったきっかけ 仙台でワーキングホリデー中、石巻出身のルームメイトとそのお母さんから石巻の魅力を知り、多くの人との出会いが、きっかけになりました。



石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより 第60号



4月23日に防災避難訓練が行われました。今回は地震対応の避難訓練です。進級したクラスで初めての訓練のため、避難経路を確認して校庭へ避難しました。



教頭先生から「迅速な避難はできていましたが、本当に災害が起きたときは今よりも周囲の安全に注意しながら急いで避難をしなければいけません」と講評がありました。



秋には火災対応の避難訓練が予定されています。いつ起こるか分からない災害に備えて真剣に訓練に取り組みましょう。

おらほの博物館!



ガラス浮き: 海に浮かべて目印にしたり、網を浮かせたりする道具

収藏品紹介 「民俗資料」

石巻市博物館では、漁具・農具をはじめ塩田関係資料などを中心とした「民俗資料」を多数収蔵しています。「民俗資料」とは、人びとが生活の中で創意工夫し、使用してきた道具のことをいいます。今回は、館蔵の「民俗資料」(以下、民具)について紹介します。

当館が所蔵する民具は、前身の石巻文化センターから受け継ぎました。石巻文化センターは、東日本大震災で被災し、取り壊しを余儀なくされました。文化センターでは、1,728件の民具を所蔵し、収蔵点数の増加により収蔵場所を確保するため、一階の一般搬入口を収蔵庫に改修し、民具の保管場所としていました。東日本大震災での津波の襲来により、約半数が流出・破損してしまいました。資料だけでなく、資料台帳や資料カードなど、これまで積み上げてきた資料データまでも津波により消失してしまいました。

これらの被災した民具を再び活用できる状態へ整えるため、令和6年度より資料の再整理に取り組んでいます。同年、東北歴史博物館を中心に「宮城県民俗担当職員協議会(宮城民俗 commons)」が発足しました。所属の枠を超えて連携・協力し、各自治体が所蔵する民具の魅力を社会に発信していこうというものです。この取り組みの中で当館も民具の再撮影を行っています。撮影した写真は、「宮城の民具」というデジタルアーカイブに公開しています。高品質の画像で民具を見ることができますので、ぜひのぞいてみてください。



デジタルアーカイブはこちら